

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年8月1日	
		指定年月日	平成17年8月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	グループホーム さくら園			
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に恵まれ、四季折々の行事で皆が楽しく伸び伸びと暮らせる環境。又、地域と一体になった施設作りに力を入れています。地域防災では、消防団と合同での訓練が実を結び、栄消防署より表彰状を頂きました。ご利用者様にとって自分らしく、かつ安全な生活が送れるよう皆が一丸となって支援して参ります。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月19日	評価機関 評価決定日	平成27年4月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇近隣住民との当たり前の付き合い                  ・地域の一員として交流を密にし地域の中で生活することをモットーとして、積極的に地域の人の中に入り込んでいる。散歩の途中では近隣の住民と挨拶を交わし、園イベントのバーベキュー大会、納涼祭、クリスマス会、消防訓練には、多数の近隣住民の参加がある。                  ◇高い職員の定着率                  ・管理者のリーダーシップのもと、職員の発想を取り入れた日々の業務が行われており、風通しの良い事業所の雰囲気ができていて、職員の定着率は非常に高い。利用者との信頼関係が構築され利用者の思いに沿ったケアができ、利用者は穏やかに毎日を過ごしている。  <b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇丁寧なケアプラン作成プロセス                  ・「ケアプラン実施状況とモニタリング」を職員が毎日○×△を付けモニタリングを行っている。更新時期にはアセスメントシートをケアマネージャーが作成し、家族の意見を聞いてケアプランの作成をしている。                  ◇リズム感のある一日の使い方                  ・午前は体力の維持を目的に体を動かすことを集中的に行い、午後はレクリエーションでリラクセスしメリハリのある生活を送っている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、年度末のユニット会議においてユニットの目標を職員の話し合いで作成し、ユニットに掲示している。	・「個人の尊厳の確保、地域密着」の理念に沿って、ユニットごとに職員全員参加で目標を設定し、フロアに掲げている。職員は日々の業務の遂行を目標に沿って行い、年度末には1年間の振り返りで今年度の反省と次年度へのつなぎを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より散歩等において自然に地域と関わる事が多く、挨拶も等でご利用者様始めスタッフの顔も覚えて頂き、交流を図っている。	・地域の一員として交流を密にし地域の中で生活することをモットーとして、積極的に地域の人の中に入り込んでいる。園イベントのバーベキュー大会、納涼祭、クリスマス会、消防訓練には、多数の近隣住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度実施している消防訓練においては、年々地域の方の参加も増え、ご利用者様と直接関わる機会を増やし、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催。家族の出席者も徐々に増え、又行政からの出席も多いことから、様々な内容の意見交換が出来ている。	・奇数月の第二水曜日を運営委員会開催の日としている。 ・イベントの企画に利用者家族も参加しており、昨年のクリスマス会は、利用者家族からアトラクションのアイディアと参加の希望があり盛大なものとなった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室が出た場合、区役所、地域ケアプラザへの連絡を密にしていることで、日頃より連携が取れている。	・運営推進会議に栄区職員、地域包括センターから出席がある。栄区高齢支援課・保護課とは利用者について様々な相談をして、助言をもらっている。栄区主催のフォーラムで地域密着の実情について講演の依頼があり、管理者が行った。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を第一に考え、ユニットの出入口、非常口、浴室、薬庫への施錠はしている。玄関は施錠していない。	・管理者は身体拘束防止マニュアルに沿って職員の指導をしている。職員が何気なくしていることが拘束に当たることを意識するよう話している。「ちょっと待って」に対して放りっぱなしは拘束に当たり、必ずフォローをするよう指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、職員への勉強会等で虐待防止への徹底は図っており、言葉使いにおいても注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在他ユニットにて1名利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー同席の元、契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をん花月2か月に一回実施し、意見交換を行い、各月の行事や日頃の様子等をお伝えしている。	・家族の意見・要望を聞く機会を増やすためにも、事業所を訪れやすい雰囲気を作るようにしている。 ・家族から利用者の好みを聞き、イベントに反映している。誕生会でケーキやお好み焼きを利用者と一緒に作り喜んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、ユニット会議にて話し合う機会を設け、ぎょうむに反映させている。	・管理者は職員の発案を大事にし、思いついたことはすぐ実行としている。 ・職員の発案によるレク参加票を作って、利用者が自発的にそれを持って参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議での提案はすぐ実践したり、職員の意見が反映される等、気持ちを損なわないような職場環境作りを心がけている。又、個々の特技や能力を生かすような仕事配分をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内・外部研修に参加することで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者会議への出席の元、様々な情報を共有するように努めている。又、豊田地域GH連絡会に出席し、近隣GHの管理者との意見交換も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談には先方に出向き、本人の日頃の様子等御家族様に伺う時間を多く採り、入所後のケアがスムーズに行なえるよう話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様との信頼関係は第一と常に考え、ご本人の様子は月一回のお便りでお知らせしたり、要望等にも話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間のコミュニケーション御家族様の「今」必要な支援を見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような付き合いができる関係作りに努め、自分の親ならどうしているかと、常に考え対応しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の架け橋になるように共に本人を支えることを第一に考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の交流、面会、外出、外泊等で関係が途切れないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は近隣出身者が多く、敬老の日には元の町内会からお祝いが届く利用者がいる。顔馴染みの近隣住民から季節の野菜・果物等の差し入れがある。</li> <li>・家族と同伴で外出に出かけたり、墓参等を行っている利用者がいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子や、状況を常に考え、席替えをしたり、レクリエーション等がかかわりを深めたり会話が弾むような雰囲気作りを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても他施設への面会、訪問をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	勤務前に、一人ひとりへの挨拶。出来る限り公平に声掛け、話を聞く時間を作り、要望や不安なことなどを聞いている。	・利用者の思いや意向は、入浴時、散歩の途中、夜勤時に1対1で聞いている。利用者から聞いた情報は申し送りで職員共有をしている。 ・一人であることが不安な利用者があり、リビングにベットを置いて、皆の顔が見えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に十分な話し合いの時間を作り、家族からも、本人からも、サービス向上に向けてのヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りを徹底し、情報を共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを元に、日々モニタリングにその日の様子や状態を記入し、次のプランへの情報に努めている。	・「ケアプラン実施状況とモニタリング」を職員が毎日○×△を付けモニタリングを行っている。更新時期にはアセスメントシートをケアマネージャーが作成し、家族の意見を聞いてケアプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな不安も大きくなならないうちにみんなで話し合い、ケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の支援に努め、家族だけでは対応できない部分においては必要に応じてサポートしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との考慮を大切に、大家さん所有のみかん畑に毎年招待いただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医による往診を受けております。又、突発的な身体の異常には24時間の対応をしています。必要に応じて、紹介状を頂く等、他病院との連携を図っています。	・利用者は家族の同意を得て、全員が協力医と契約している。内科医の訪問診療は月2回、歯科医は毎週水曜日、訪問看護は毎週訪問がある。利用者の通院には、職員が付き添い、事業所内での状況を医師に伝えている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護では園とナース間に報告ノートを設け、変化や木月を記入し、処置や情報、指導を頂いている。又、緊急時には24時間の連絡が行なえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接面会し、本人の様子を確認したり、担当ドクターやナースより話を聞く機会を出来るだけ多く作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期についての説明は行なっているが、今のところターミナルを行なったことはない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の対応については、入居前に説明しているが、重度化した場合には、協力医、訪問看護師、事業所と家族が話し合い方針を決めることになっている。</li> <li>・職員は外部研修の看取りに関するセミナーに出席し、報告している。</li> </ul>	・看取りの場合を想定した、体制の確立が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、マニュアルにて習得、消防訓練にて応急手当、又今年はAEDの実践訓練を実施した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との合同訓練を行い協力体制を蜜に図れるような関係作りを構築している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は地域の消防団と連携して行い、地域住民も多数参加している。消防団と地域支援に関する覚書を交わしており、地域と密着した活動に対し、栄消防署より感謝状が贈られた。AEDを設置し、災害時には自動販売機から30ケース分の飲料を無料で提供することができる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いにも個々に合わせ「親しき仲にも礼儀あり」の精神で対応させて頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は接遇やプライバシー保護の研修を受けて、利用者への声掛けには利用者の誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。</li> <li>・職員は不適切な場面に気が付いた場合は、その都度お互いに注意しあっている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が事由に意思表示できるような雰囲気を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由時間には趣味を楽しんでもらったり、無理なくレクリエーションに参加いただいたりと1日を楽に楽しく過ごさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは本人の希望を聞きながら一緒に揃えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事の形態にしている。嚥下体操も毎食前に行い歌を交えて楽しく食べてもらう工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は業者から調達し、地場野菜を使った家庭料理を提供し、食事を安全に美味しく食べるため食前に早口言葉や手や腕をうごかす嚥下体操を行っている。</li> <li>・職員は利用者とともに楽しく食事ができるよう配慮している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を表にして確認しています。食事量減少してきた方主治医より栄養補助飲料を処方して頂くなど管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える方は声掛けをし、それ以外の方は見守り、介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	能力を失わないよう様子、変化に注意を図っている。個々の排泄パターンを把握し、時間で声掛けするよう心がけている。	・排泄表からリズムを把握し、利用者の様子を見ながら声掛け誘導し、自立支援を促している。 ・失敗したときも傷つかないように、さりげなく速やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操、歩行運動、園外への散歩にて体を動かしてもらい、スムーズな排便に繋がるよう支援している。必要な方には薬の処方も頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調を考慮しながらローテーションにて提供している。	・週2～3回一日3人ずつ午後の時間帯で、入浴剤やゆず・しょうぶ湯で楽しんでもらっている。 ・入浴を好まない利用者には、時間を変えて対応したり、拒否の強い場合は場合は気の合った職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は体操や散歩、午後は歌やレクリエーション、入浴以外の方は足浴を実施して安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうため、その度申し送りノートを利用して職員全体に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の挨拶当番を決めて号令をかけてもらっている。出来る人に出来ることをお手伝いしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月決まった外出を希望される方には、ご家族様協力の下支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には、歩ける人は事業所周辺を20分程度散歩に出かけ、車椅子の人も、近隣を散歩している。</li> <li>・日常の外出のほかに、ズーラシア動物園やミカン狩りと外出の機会が多い。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使う機会は特になく、トラブルを防ぐため、入居時に説明、理解の下持ち込まないように協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聞き自由に連絡を取っていただいている。又、お友達やご家族様からの連絡も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月職員の手作りカレンダーにて季節感を出している。又、遠足や園内行事の写真など、廊下壁面に貼り出し楽しんでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングは広く明るく、清潔で湿度にも配慮されている。手作りカレンダーや行事の写真で季節感、生活感を演出している。</li> <li>・リビングに続いて、和室があり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ趣味を楽しまれたり、マージャン、将棋等。又、新聞を読まれたり、テレビを観たり自由な時間を過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき、今までの生活とあまりかけ離れないよう安心できる工夫をしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン・クローゼット付きの居室に、各自思い出の品や家族の写真・仏壇などを持ち込み、心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫されている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面、トイレお風呂などにプレートを付け、混乱なく生活できるよう配慮しています。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着は一番に力を入れているところであり、地元の消防団との消防訓練は毎年恒例となっている。地域の皆様と災害・防災・救急に意識を高め、助け合いや連携を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年9月には、地域の祭礼に参加しています。又、日課の散歩では気軽に挨拶を交わしたり、会話やコミュニケーションを取り合っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏に行なうバーベキュー大会では、近所の方々を毎年招致しています。年々人数が増えていき、テントの設営のお手伝いも町内の方々が率先して行ってくれています。もちつもたれつのか関係を築いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、近所の空き家を会場として提供して頂いております。家族・行政・ケアプラザ・大家・民生委員等に毎回ご参加頂き、有意義な情報交換の場になっております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ、ご利用者様の紹介を頂いたり、又、豊田地区GH連絡会を機能させたことで、定期的な情報交換の場とさせて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を守るという意味でユニットの出入り口と浴室は施錠しているが、内側からも外側からも解錠できる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内マニュアルを使った勉強会にて理解を深めた。今後も内外の研修会に出席し理解を深めて行く。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在、1名の方が利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず管理者、リーダー、ケアマネージャーが同席するようにし、その場でご理解、納得いただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、意見交換を行い、質の向上に努めている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っている管理者会議にリーダーも出席し、現場スタッフの意見等が反映するよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心の持てる職場環境を目指し、資格取得時にはシフト調整や先輩スタッフからの助言、指導を受ける等職員同士の絆を深めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議時に内部研修を定期的に行っている。又、外部の研修にも参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回の管理者会議にて行事や活動の報告会を設け、サービス内容について活性化させている。その他、近隣のグループホームとの連絡会にて意見交換を行うことで刺激を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っていることを理解し、安心して生活できることを第一に関わりを持ち、信頼関係を深め、自然な形で情報収集できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互いの理解に食い違いが起きないよう、何度も良くお話しすることで関係性を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から要望をお聞きし、こちらの出来ることやアドバイス等、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意分野や、日課、家事等、日常生活の中で出来ることを一緒に行ったり、参加していただく事でお互いの信頼関係を深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様の中に立ち、お互いの思いを尊重しながら橋渡しが出来するような関係作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やお友達からの電話やお手紙等、随時取り次いでいます。ご面会も気軽にきていただけるオープンな環境づくりに気を配っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルが発生しないように、些細なことでも申し送りなどにより、職員が情報を共有できるようにする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に伺う等の機会を設けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の趣味や希望になるべく浴うように日常生活していただいている。散歩や入浴時に個別に聞き出すよう工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族の情報を元に、これまでの暮らしに近い生活がおくれるよう情報を把握し、自分らしく生活して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細な様子の変化も見逃さず、確実に情報共有出来るよう、申し送りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のモニタリングやユニット会議にて意見を交換し合い、計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のほかに、特記事項は申し送りノートにて情報を共有している。その都度も直しをして個別に沿ったケアを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊の支援や突発的な事柄など、家族だけでは対応できない部分については、必要に応じてサポートしている。海外旅行にも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流を大切にし、町内行事に参加したり大家さんのみかん畑に招待して頂いたり、地域と利用者様が一体になれる場面作りをしています。旬の食材をおすそ分けして頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時には、本人だけでなく、御家族様も同席の上、話を伺う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護では、園とナースの間に報告ノートを設け細かくやり取りしている。そのときの変化や気づきを記入し、お互いの情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に往診医より情報を得ている。又、直接面会し、本人の様子を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針については、契約時にご説明を行なっている。ターミナルについてはこれまで行なった事がない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて学び、年2回の消防訓練にてAEDの実践に取り組んだ。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防団合同訓練を行い、地域との協力体制を蜜に図れるような関係作りを構築している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉使いや声掛けをするよう、対応に努めている。ご利用者様は『人生の先輩である』ということ念頭に、日々対応させて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思表示しやすい雰囲気作りに努めている。コミュニケーションを常にとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間には趣味を楽しんでもらったり、気分の乗らないときはゆっくりしてもらおう等配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは本人に希望を聞きながら一緒に揃えている。女性にはネイルなど希望で行なっています。訪問美容が定期的にある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事の形態にしている。嚥下の体操や歌などで楽しく食べて頂ける工夫をしている。おやつ白玉団子をつくってもらったり、一緒に楽しみを共有できる工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事で栄養が十分に摂れない方は主治医より栄養ドリンクを処方してもらい、偏らないよう支援している。水分表や食事量の表を確認し摂取量に達成するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える方は声掛にてはみがきしていただいている。それ以外の方は職員が介助し、清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	能力を失わないよう、そわそわした様子等見逃さない注意している。又、個々のパターンやサイクルなどを把握して時間で声掛けするよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩にて体を動かしてもらい、スムーズに排便できるよう支援している。又、必要な方には薬の処方をしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮しながらローテーションにて提供している。毎日の直前のバイタルチェックにて体調を確認し、一人ひとりに合わせた声掛けを行っている。又、入浴剤にて気持ちよく入れるよう演出している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をしていただいていることで安眠に繋がっている。午前中は散歩や体操などを行い午後は歌やレクリエーションなどを行い充実感に満ちた生活を行えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わるようにしている。ユニット会議にて薬の勉強をしている。又、チェック表にて飲み忘れや誤薬が起きないように常に二名で確認することになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	挨拶当番表にて食前、食後に号令をかけていただくなど、皆に役割を持っていただくよう心がけている。誕生会や、毎月季節ごとの行事を設け、皆と楽しく生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容院など、家族の協力の下、今までの関係性が途切れないよう外出の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使える機会は少ない。又、トラブルを防ぐため入居時に説明し、極力持ち込まないことにご理解いただいている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聞き、自由に連絡を取っていただいている。又、お友達やご家族様のからの連絡も常時取り次いでいる。毎日電話が日課の方は、気持ちの安定に繋がっているようです。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ扉に「入っています」「あいています」などの札で混乱を防ぐ工夫をしています。リビングでは皆の好きなBGMを流したり、集まりやすい環境作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性は将棋やマーじゃん女性は編み物等、気の合う方過ごしている。又、和室のソファでテレビをご覧になったり新聞を読んだり、思い思いに自由に過ごしていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものを持ち込んでいただき、今までの生活とかけ離れないよう、安心できる工夫をしています。仏壇に手を合わせお水をあげたり、その人らしい生活が送れるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、洗面、トイレ、お風呂などにプレートを付け、混乱なく生活できるように配慮しています。床はクッションフロアのバリアフリーになっており、安全に努めています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくら園

作成日 平成27年5月11日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		入居時に看取りを希望されるご家族様もいらっしゃいますが、実際は継続的に医療行為が必要であったり、介護度が上がった時点で特養を検討される方がほとんどの為、看取りの実績はありません。	訪問医や訪問看護、家族との今後の方針や具体的な話し合いを十分取り、バックアップの体制を明確にしていく。	研修等による知識、技術の向上。又、実際看取りの経験をしている他施設等からの情報収集。医師、施設、家族間の信頼関係の構築。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。